



基本構想

市民と行政が共通して持つ
まちづくりの目標です。

第1章 まちづくりの方向性

1. 重点事項



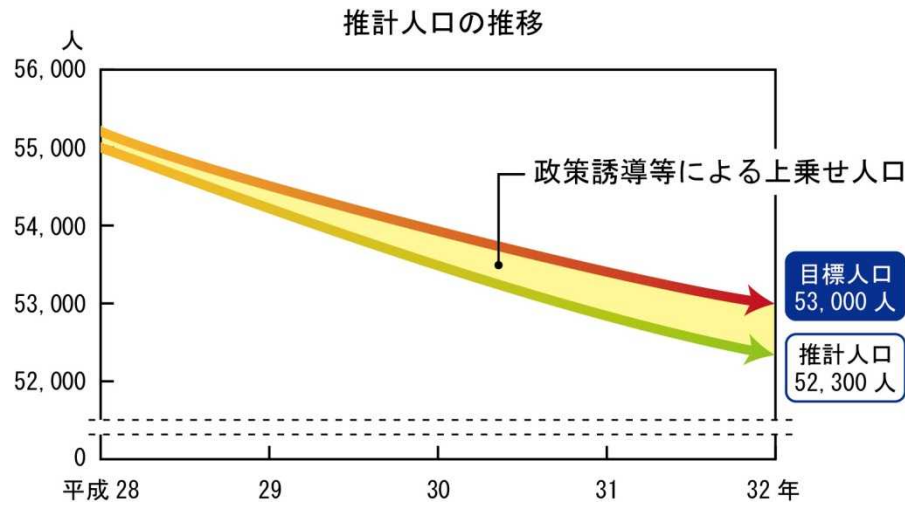
まちづくりの基本目標

- 1 子どもや若者の未来を創るまち
- 2 郷土愛にあふれ活力と賑わいのあるまち
- 3 いつまでも元気で生きがいのもてるまち
- 4 助け合い、支え合い、安全に安心して暮らせるまち

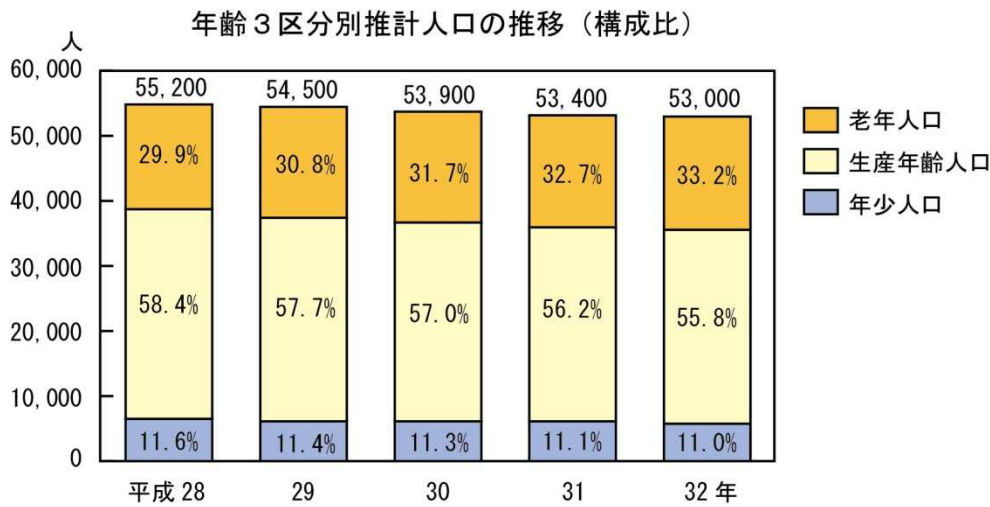
方策の柱 自立できる自治体経営の推進

2. 目標人口

目標人口は、本来の推計人口では平成 32 年 52,300 人まで減少することが予測されていますが、中心市街地の活性化や拠点機能整備などによる宅地開発を進め、定住人口の増加を着実に進め、にぎわいの創出と人口の流出抑制に努めることにより、目標人口 53,000 人を目指します。



目標人口における年齢3区分別人口の構成比をみると、65 歳以上の老年人口は、平成 32 年の推計値において、約 17,600 人（33.2%）と増加する一方で、年少人口は約 5,850 人（11.0%）、生産年齢人口は約 29,600 人（55.8%）と減少することが見込まれます。



3. 将来土地利用

土地は限りある資源であり、市民生活や各種活動の基盤となるものです。土地利用にあたっては、地域特性を活かしながら自然環境と都市環境の調和のとれた総合的・計画的な利用を推進します。

(1) ゾーニング

市街地・住宅ゾーン

二本松駅周辺地区・杉田駅周辺地区から安達駅周辺に至る一帯を「市街地・住宅ゾーン」とします。中心市街地においては、にぎわいの創出に努めるとともに都市機能がコンパクトに集約された高齢者等が歩いて暮らせる居住機能の向上を図ります。また、市街地の特性に合わせ都市機能の集積や秩序ある商業市街地の形成を図るとともに住環境整備による計画的で秩序ある住宅市街地の形成を図ります。

田園集落ゾーン

市内各所に広がる農業・農村地区を「田園集落ゾーン」と位置づけ、農業振興地域においては、優良農地の保全と有効利用に努めます。

一方、日常生活に必要なサービスを受けることが困難になるとともに、コミュニティ機能が低下している集落においては複数の集落による生活拠点づくりに取り組みます。

工業ゾーン

「企業立地重点促進区域」に指定されている市域南部の阿武隈川周辺一帯や既成工業地区を「工業ゾーン」と位置づけ、敷地の大規模化を進めるとともに周辺環境と調和を図りながら工業・流通団地用地としての基盤整備の充実を図ります。

観光レクリエーションゾーン

安達太良山麓地区一帯や阿武隈高地地区一帯を「観光レクリエーションゾーン」と位置づけ、都市圏からの観光客を呼び込むとともに市民の憩いの場として活用を図ります。

一方、畜産の振興や森林の計画的な保全を図ります。

(2) 主要拠点

中心拠点と地域拠点の形成

二本松駅・二本松市役所周辺を「中心拠点」と位置づけ、その求心力をさらに高めていくため、霞ヶ城公園周辺から中心市街地に至る魅力ある空間づくりを推進し、商業・サービス機能、文化機能などの集積・誘導を促進します。さらに隣接する杉田駅の周辺及び安達駅の周辺を、中心拠点を補完する「サブ拠点」として位置づけ整備を進めます。二本松駅から安達駅の周辺にかけては、連続する市街地であることから、「中心エリア」として拠点間の連携を図っていきます。

また、小浜地区及び針道地区については、支所を中心に生活の利便性を確保し、暮らしの安心を守る「地域拠点」として位置づけ、地域の定住人口の安定に努めます。

観光交流拠点の形成

温泉、山、高原、公園、道の駅などについて、それぞれの資源を十分に活かした取り組みを進めることにより、「観光交流拠点」と位置づけます。

また、テーマを設定して、これまであまり活用されてこなかった資源を掘り起こしたり、分散している資源のネットワーク化を進め、交流を促進します。



第2章 まちづくりの基本目標

1 子どもや若者の未来を創るまち



子ども教室（安達）



子ども教室（東和）

少子化が進む中で子育て世代が、働きながら安心して子どもを産み育てられる支援や環境整備を図り、子育て家庭を地域全体で支援する仕組みをつくります。

次代を担う子どもに対する教育を充実するため、知・徳・体の3つをバランスよく身につけた「生きる力」を高めるなど学校教育を充実するとともに、家庭、地域と連携した教育を推進します。

若者が市内に定住できるよう生活基盤の確保を図る一方、若者の力を地域の中で活かすことができるよう多様な就業の場の確保やチャレンジを支援、出会いと交流を促進します。

少子高齢化や人口減少が進む中で、今後のまちづくりにおいては生活支援機能を集約したコンパクトな市街地形成を図る中で居住環境を整備します。また、市街地と地域をつなぐネットワークを充実します。

(1) 子どもを産み育てやすいまちをつくります

妊娠から出産までの継続した保健・医療などの支援を充実し、親と子どもの健康づくりを強化します。

子育てに対する親の不安や負担を和らげることができるよう、子育て支援の総合的な窓口機能を持ち、気軽に相談ができて親同士が交流できる子育て拠点の体制整備、多様な保育サービスの提供など、子育てしやすい環境づくりを進めます。また、子育てに関わる経済的支援を充実します。

(2) 学校と家庭、地域が連携して子どもの教育を推進します

次代を担う子どもたちの確かな学力、健やかな体の育成に努め、学校と家庭、地域が連携して社会で「生きる力」や、人や自然に対する思いやり、郷土を誇りに思う心を育む教育を推進します。

各学校独自の特色を活かした活動を促進するとともに、時代に対応した教育環境の整備充実を図ります。

(3) 若者の定住を促進します

市内外の若者に対し、市内での就業につながる雇用の場を提供・創出するとともに、定住化を促進するためにさまざまな支援に努めます。

また、若者の力を地域の中で活かすとともに、男女の出会いの場、結婚を地域全体で支援します。

(4) 居住環境を整備し暮らしやすいまちをつくります

市街地や地域拠点において、良好な居住環境の整備を図ります。

生活条件の不利な中山間地域においては生活に不可欠な機能をできるだけ地域で確保し、あわせて道路ネットワークの整備により市街地との連携を強化します。

多世代が集う憩いの場づくりを推進します。

2 郷土愛にあふれ活力と賑わいのあるまち



二本松駅前



二本松の菊人形

歴史と文化を活かした二本松らしい空間づくりを目指す中で、観光都市としての魅力の向上を図るとともに、多くの人に訪れてもらえる、おもてなし観光を推進します。

コンパクトな中心市街地の形成を図る中で集客施設や特色ある商店街を活性化することにより、活力と賑わいのあるまちづくりを進めます。また、多様な就業の場の確保を図ります。

農業の持続的発展に向け、ブランド化の推進と販路拡大、農業担い手の育成、安全安心な農産物の生産などに取り組めます。

市民一人ひとりの力が発揮されるよう協働事業や地域活動など個性あふれる地域づくりを推進します。

（１）歴史と文化を活かし交流人口を増やします

多くの人に訪れてもらえるよう誘客体制の充実などにより、観光客を市内に引き込み、市内に還流させるおもてなし観光を推進します。

霞ヶ城公園の整備をはじめ観光都市としての魅力向上に取り組むとともに、新たな観光資源の掘り起こしと活用、整備により滞在交流型観光を推進します。

（２）商工業の振興で賑わいのあるまちをつくります

商業機能や公共交通、公共施設など都市機能がコンパクトに集積した中心市街地の拠点性を高め、にぎわいの創出に努めます。

市内企業の経営力強化や操業しやすい環境整備による地域産業の振興を図ります。

また、地場産業のブランド化を図るとともに企業立地を促進します。性別や年齢などに関係なくチャレンジ精神を持つ市民の新規創業を支援し、働きがいのある就業の場づくりを応援します。

（３）個性あふれる地域農業を形成します

二本松の農産物自体の付加価値を高めるとともに、他産業との連携により生産から加工、流通、販売まで取り組む6次産業化を推進します。

認定農業者や集落営農組織などによる農業担い手の育成及び農業を志す若者や女性、高齢者など多様な担い手を育成します。

生産力確保に向けた生産基盤の整備を図る一方、消費者の信頼確保に向けた安全安心な農産物の生産を図ります。

（４）特性を活かした地域づくりを進めます

地域の特性を活かしたさまざまな交流を拡大し、二地域居住などにつなげていきます。

地域住民が連携し、地域の課題解決や産業、文化など幅広い分野での協働の取り組みを推進します。

周辺地域などにおいては、地域コミュニティ機能の維持・発展を図ります。高齢者が幅広く活躍できる環境づくりに努めます。

3 いつまでも元気で 生きがいのもてるまち



健康づくり活動



生涯学習活動

市民一人ひとりが健康に関する正しい知識と習慣を身につけライフステージに合わせたスポーツを楽しんで実践することで自分らしく健康的に暮らせるよう、保健事業の充実と生涯スポーツの推進を図ります。

あらゆる世代の市民が学びを継続し、その成果を社会で活用できる環境を整備します。また、図書館機能の充実、暮らしの楽しさや生きがいにつながる学習や文化・芸術活動の活性化を図ります。

(1) 元気・健康で生涯スポーツの盛んなまちをつくります

子どもから高齢者まで、市民一人ひとりが健康状態に合わせて健康づくりを実践していくことができるよう、健康マイレージの普及など健康づくり運動に取り組みます。

市民が利用しやすいスポーツ施設の運営や、誰もがスポーツに参加できる機会などスポーツ・レクリエーションの振興を図ります。

(2) 生涯学習を推進し、生きがいのあるまちをつくります

市民が生涯にわたり学習することができ、豊かな知恵を育むことができるよう学習の機会と場所を提供し、学習成果を活かす仕組みをつくります。

市民が優れた文化・芸術に触れる機会を増やし、自主的な活動への支援を行うなど市民の文化・芸術活動の活性化を図ります。

生涯学習の推進拠点として、公民館の機能を充実させるとともに、まちの情報拠点として、図書館機能の充実を図ります。

4 助け合い、支え合い、安全に 安心して暮らせるまち



防災訓練



太陽光パネル（東和こども園）

市民が安心して暮らせるよう、適切な地域医療や福祉サービスを受けられる体制を充実するとともに、適切な介護サービスを確保し、地域全体で積極的に助け合い、支え合える地域ぐるみ福祉に取り組めます。

市民の生命、財産を自然災害から守るため、災害や危機に的確に対応できるまちづくりを進めるとともに、交通安全、防犯など暮らしの安全対策を充実します。

放射線からの健康管理に引き続き取り組めます。

市内の豊かな自然の保全を図るとともに、環境への負荷の少ない社会を構築するため市民の意識を高めるとともに、地球温暖化防止、資源の循環利用などを促進します。

(1) ふれあいのあるやさしい福祉社会と医療体制をつくります

高齢者や障がい者などの生活を支える福祉サービスを充実するとともに、地域の実情に則して適切な介護サービスを確保し、高齢者や障がい者、子どもを支える地域包括ケアへの取り組みなど、地域ぐるみ福祉を推進します。

市内の医療機関や安達医師会、安達歯科医師会等と連携しながら地域医療体制の充実を図ります。

医療、介護、年金等の社会保障制度の安定的運営に努めます。

(2) 市民の生命と財産を守ります

災害や危機に的確に対応できるよう市民一人ひとりが災害に備えるとともに、自主防災組織を中心とした地域防災力の強化、防災体制の整備・充実、安達太良山の噴火対策などを進めます。また、治山・治水事業を推進します。

地域ぐるみの防犯対策や交通安全対策、相談機能の充実による消費者保護対策に取り組めます。

放射線に対する効果的な除染事業の推進を図るとともに、放射線からの影響を最も受けやすい子どもや妊婦等の健康管理を継続して実施します。

(3) 自然と共生し環境に配慮したまちをつくります

水の大切さを理解し、生活排水処理による水環境の保全や、安心して安全な生活用水の安定確保を図ります。

豊かな緑に包まれた自然景観や歴史を活かした二本松らしい景観は、二本松の魅力の一つです。市民の心に残る自然や景観を保全するとともに、未来への継承に努めます。

持続可能な社会を実現するため、地球温暖化防止や再生可能エネルギーの利用拡大、ごみの排出抑制など環境負荷の軽減に取り組めます。

方策 自立できる 自治体経営の推進

まちづくりに関する情報の共有を進め、市民との相互理解のもと地域づくりや産業振興、福祉など幅広い分野での連携・協働によるまちづくりへの取り組みを推進します。

社会経済情勢の大きな変化や一層厳しさを増す財政状況を踏まえ、効果的に政策を展開していくことのできる仕組みづくりに努めます。また、長期的視点に立ち、持続可能な財政運営に取り組みます。

（１）開かれた市政を推進します

市民をはじめとしたさまざまな活動主体と行政との対話や市民の提言機会の充実、行政情報の公開による共有を図ります。

行政サービスの効率化と経済性を高めることができるよう、行政、企業、NPO、市民団体などのさまざまな活動主体の力を結集して公共サービスの質的向上と効率化を進めます。

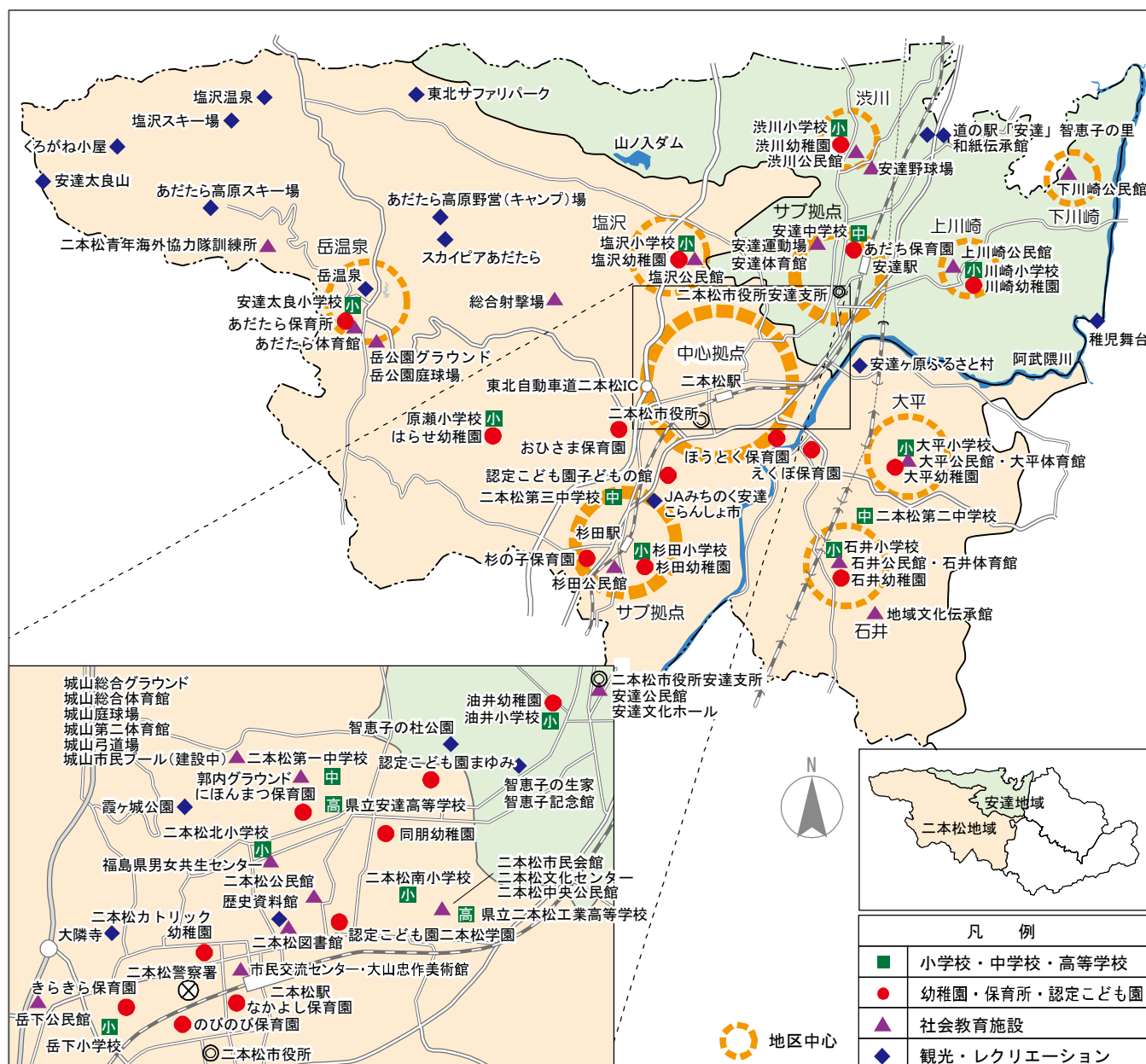
（２）効率的な行財政の運営を推進します

地方分権が進展する中、市民にとってわかりやすい行政運営を図ります。組織が相互に連携し、横断的に機能する体制づくりや、行政評価による検証を選択と集中につなげるなど経営的視点に立った行政運営に取り組みます。

自主財源の安定的な確保に取り組み、持続可能で健全な財政運営をはじめ、職員の資質向上やさらなる市政改革の推進、市域の垣根を越えた広域的な連携を図ります。

地域の発展方向

◆二本松・安達地域



二本松地域は、二本松城跡をはじめとして、城下町としての風情を残す中心市街地に事業所、商店街、住宅が集中し、行政、教育、医療機関など市のさまざまな施設も立地しています。

二本松駅周辺の整備事業が完了し、周辺商店街と一体となった中心市街地の再生を進めつつありますが、近年の人口の減少や大型店の郊外立地などにより、既存商店に大きな影響を与えています。

中心市街地は、まちの顔であるとともに市内外の人たちがたくさん集まる場所であり、まちの発展に広く影響を与えていくことから、二本松駅周辺においては市民交流センターを核に、商業、サービス機能の集積を図り、まちなかの経済活動の活発化を促します。また、霞ヶ城公園周辺に観光拠点施設を整備し、観光都市としての魅力向上を図ります。

人口減少、少子高齢化に対応し、誰もが安心して暮らせるようコンパクトに都市機能が集積された中心市街地への居住を推進します。杉田駅周辺については、良好な住環境の整備を図ります。

安達地域は、二本松地域の市街地から連担する旧奥州街道周辺や智恵子の森団地、安達駅周辺において宅地化が進むとともに、商業施設の立地が進んでいます。

こうした動向に対応し、安達駅周辺では道路整備等のインフラ整備を進め、民間開発の誘導に努め、良好な住環境整備に取り組んでいます。安達支所を中心に行政機能が集中し、安達駅前には医療機関がいくつも立地し、学校、保育機能も近距離に立地していることから、住宅整備とあいまって、まちの機能がコンパクトに集約された利便性の高い市街地整備を図ります。

また、二本松地域に連担する智恵子の杜公園等の丘陵地は、文化・レクリエーションの場としての活用を図ります。

安達太良山のふもとには農地が広がり、山麓では酪農や畜産が営まれるなど、地域の特性を活かした農業振興を図ります。安達太良山系とその山裾に広がる高地は、一部国立公園の指定を受け、四季にわたる豊かな自然を有し、岳・塩沢温泉があるなど、観光・レクリエーション拠点となっています。観光客誘致に向け、周辺自治体と連携した安達太良山や阿武隈川流域の広域観光ルートづくりに取り組みます。また、観光と農業者を結びつけた6次産業化を推進します。

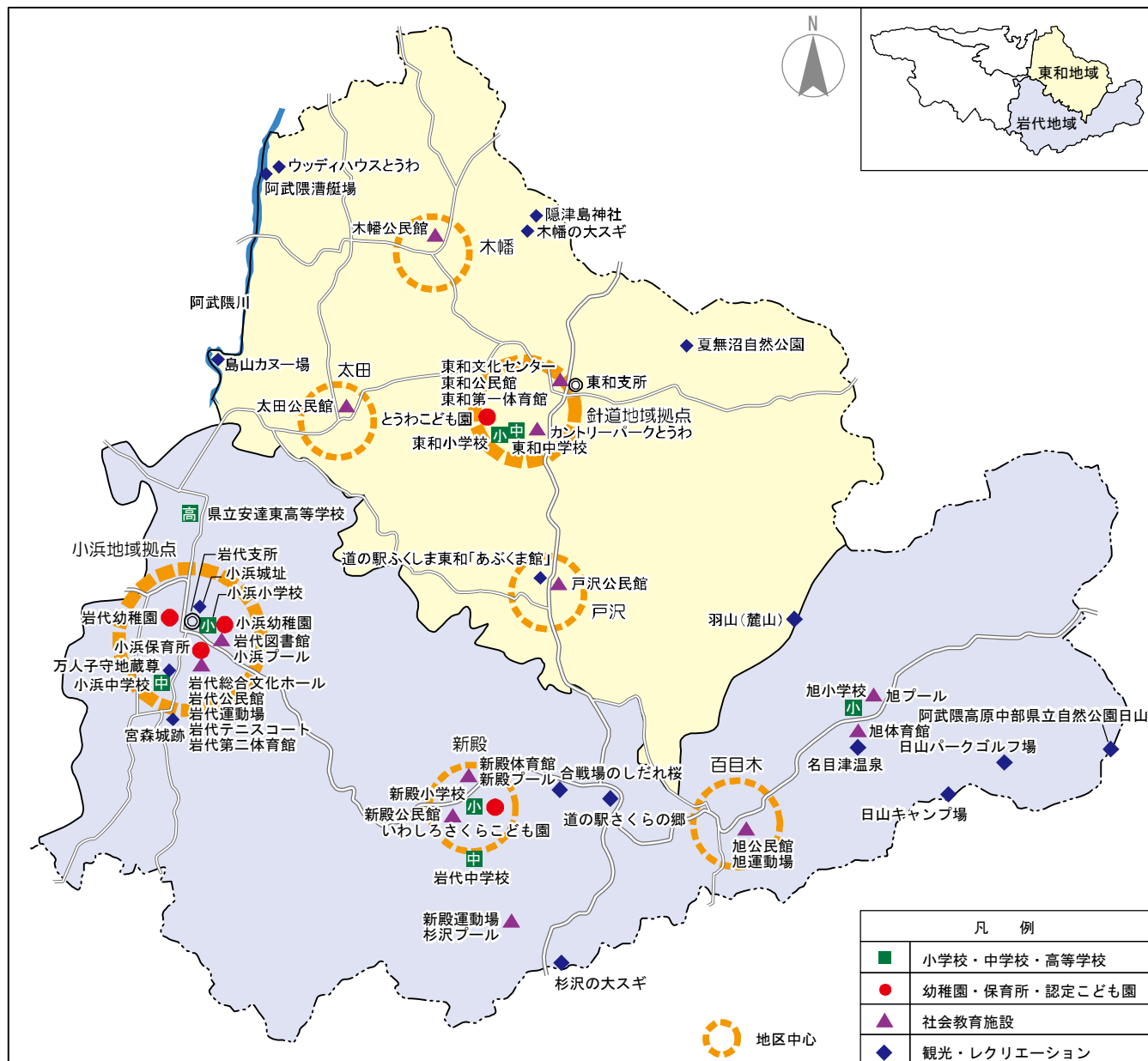


二本松城跡



安達駅東口

◆岩代・東和地域



岩代地域・東和地域は、阿武隈高地特有の起伏に富んだ山間丘陵地にあるため、山間地の中腹高台に耕地・住家が散在しています。このため、農地は小規模で傾斜地が多く、過疎化の進行に伴い遊休農地及び耕作放棄地が増えています。

商業施設等の基本的な生活機能は、岩代地域では小浜地区に、東和地域では、針道地区に集中しています。しかし、岩代地域・東和地域ともに人口減少と少子高齢化が進み、空き店舗や空き家が増加していることから、基本的な生活機能の維持に向け、地域の実情に合った小さな拠点づくりを進めます。

地域内人口の減少を抑えるために農業振興は重要であることから、農産物直売所として地域振興の中核的施設である道の駅「さくらの郷」及び「ふくしま東和」では、地域イベントや農作業等体験、グリーンツーリズムなどを通じて都市部との交流を行い、二地域居住や移住促進を進めるために雇用創出や新規就農の受入れなどの独自事業も展開しています。地域住民の拠点施設としての役割も果たしつつあり、今後、地域振興の拠点としての役割を果たすことができるよう活動支援に努めます。

阿武隈高原中部県立自然公園日山や名勝木幡山などは豊かな自然環境を有し、杉沢の大スギや木幡の大スギ、合戦場のしだれ桜などの名木や、小浜城跡、隠津島神社三重塔などの歴史・文化遺産とあいまって地域の風土をかたちづくっています。こうした自然環境の中に、日山キャンプ場や夏無沼キャンプ場、日山パークゴルフ場、カヌーのメッカ阿武隈漕艇場、バイオマスエネルギーを活用した名目津温泉など観光・レクリエーション資源があり、これらさまざまな観光資源をネットワーク化し、新たな価値観に基づいた新しい観光ルートを作成して市内外へ幅広くPRする事によって、交流人口の拡大に努めます。



道の駅「ふくしま東和」



木幡の大スギ



道の駅「さくらの郷」

